

2025年度
世 界 史
(問 題)

〈R07193416〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～8ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

中世におけるローマ＝カトリック教会の浸透は、西ヨーロッパの成立を考えるうえで最も重要な要素のひとつといえよう。古代ローマ時代に誕生したキリスト教は、中世において社会のシステムと不可分となった。

ローマ帝政時代、キリスト教徒は度々迫害の対象となったが、信仰の拡大は次第に抑えがたいものとなった。コンスタンティヌス帝による公認や後の国教化などを経て皇帝に保護されるようになると、キリスト教は帝国全土で普及し組織化が進んだ。しかし、ローマ帝国が東西に分かれた頃から、キリスト教の世界でも実質的な東西の分断が進むこととなった。西方ではキリスト教の信仰がゲルマン人にも広く受け入れられた。なかでもフランク王国は正統派に改宗し、後にランゴバルド族を倒し、F地方を教皇に献じるなど、ローマ教会と強く結びついて発展した。こうして西方ではローマ＝カトリック教会が中心となり、また東方のビザンツ帝国では総主教座を擁するコンスタンティノープルを中心にギリシア正教が独自の発展を遂げることとなった。

中世では各地に司教座聖堂や修道院、教会堂などが建設され、ローマ＝カトリック教会のネットワークに多様な地域が取り込まれた。婚姻が秘跡のひとつとされ宗教的儀式となるなど、社会生活を送るうえで教会は身分にかかわらず不可欠のものとなった。神学を中心とした学問の発展も欠かせなかったが、ギリシア哲学などの影響を受けたことは教会教義と対立する科学思想の萌芽を育むこととなった。

中世盛期における教皇の政治的な影響力は強く、インノケンティウス3世の時代に教皇権は最盛期を迎えた。しかし、その後アナーニ事件などに象徴されるように教皇権は衰退の兆しを見せるようになった。やがて世俗権力の伸張、教会の大分裂、そして宗教改革などによりローマ＝カトリック教会の政治的な影響力は弱まっていった。まして現代においては顕示的な政治的影響は大きいとはいえない。しかしながら、1950年代における欧州経済共同体などの成立に見られるような一体性を考えるとき、各地で共通する社会システムを作り上げ、時代を経ても精神的支柱であり続けるローマ＝カトリック教会の影響は甚大といわざるを得ない。

問A 下線部Aに関して、共和政時代のローマに関する記述として適切なものを選べ。

1. エトルリア人の一派によりティベル河畔に建設された都市国家が発展した。
2. ギリシアの植民都市を占領して、前7世紀に全イタリア半島を支配下においた。
3. 第1次ポエニ戦争により、シチリア島を初の属州とした。
4. 奴隷を使用したコロナトゥスによる大規模農園経営が行われた。

問B 下線部Bに関して、『教会史』などを著し、コンスタンティヌス帝の治世下で活躍した人物の名前を選べ。

1. セネカ
2. アンブロシウス
3. アウグスティヌス
4. エウゼビオス

問C 下線部Cに関して、キリスト教の宗派に関する記述として誤っているものを選べ。

1. ニケーアの公会議において、アリウス派は異端とされた。
2. エフェソスの公会議において、カルケドン信条が確認された。
3. 単性論派はシリアやアルメニアで拡大した。
4. ネストリウス派は中国において景教とよばれた。

問D 下線部Dに関して、ゲルマン系などの諸民族による王国のうち、オドアケルの王国を滅ぼして建国されたものを選べ。

1. ブルグント王国
2. 東ゴート王国
3. 西ゴート王国
4. ヴァンダル王国

問E 下線部Eに関して、フランク王国についての記述として適切なものを選び。

1. トゥール・ポワティエ間の戦いでアッパース朝のイスラーム軍が撃退された。
2. 宮宰（マヨル＝ドムス）であったクロヴィスにより統一された。
3. ヴェルダン条約でルートヴィヒ1世にフランク王国中部が与えられた。
4. カール大帝は教皇レオ3世により戴冠された。

問F F にあてはまる言葉を選び。

1. ピエモンテ
2. カラブリア
3. ラヴェンナ
4. サルデーニャ

問G 下線部Gに関して、一時的に版図を地中海のほぼ全域に広げたビザンツ帝国皇帝の名前を選び。

1. ユリアヌス
2. ユスティニアヌス
3. レオン3世
4. テオドシウス

問H 下線部Hに関して、910年頃ブルゴーニュ地方で設立され、隆盛を誇った修道院の名称を選び。

1. クリュニー
2. フランチェスコ
3. ベネディクト
4. シトー

問I 下線部Iに関して、中世の学問についての記述として誤っているものを選び。

1. イギリスのロジャー＝ベーコンは実験と観察を重視した。
2. 『神学大全』を著したトマス＝アクィナスは、スコラ学を大成した。
3. 「スコラ学の父」と呼ばれるアベラールは実在論をとらえた。
4. ウィリアム＝オブ＝オッカムは唯名論をとらえた。

問J 下線部Jに関連して、アナーニ事件を起こしたフランス王がその治世下で行ったこととして適切なものを選び。

1. ヴォルムス協約の締結
2. アルビジョワ十字軍の派遣
3. 百年戦争の終結
4. 全国三部会の招集

問K 下線部Kに関連して、ローマとアヴィニヨンに教皇が並立した、教会の大分裂の時期に起こったことがらでないものを選び。

1. ジャクリーの乱
2. ワット＝タイラーの乱
3. カルマル同盟の結成
4. ヤゲウォ朝の成立

問L 下線部Lに関して、宗教改革で重要な役割を果たしたルターが行ったこととして誤っているものを選び。

1. 贖宥状の販売を攻撃した。
2. ザクセン選帝侯のもとで『新約聖書』のドイツ語訳を完成させた。
3. 司教制度を廃止し、長老主義を導入した。
4. 教皇から破門されたが自説を撤回しなかった。

II 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

中国の歴史上、玄宗皇帝が海上交易を管理する市舶司を広州に整備したのは8世紀であった。10世紀後半に成立した宋も市舶司を設置し、周辺諸国家との海上交易の管理を推進した。13世紀後半になると、モンゴル帝国も積極的にこうした交易に参入したうえ、東南アジアへの軍事遠征をも行って、この地域の国際秩序に介入した。14世紀後半、明は海禁政策をとり、国家による交易への統制をさらに強めたが、民間の密貿易を根絶することはできず、16世紀になると、かえってその鎮圧に苦慮するようになった。

問A 下線部Aについて、この皇帝の治世に起きた出来事の一つ選べ。

1. 『五経正義』の成立
2. 『大唐西域記』の完成
3. 東突厥の滅亡
4. 大秦景教流行中国碑の設立

問B 下線部Bについて、8世紀の東南アジアで起きなかった出来事の一つ選べ。

1. スコータイ朝の滅亡
2. マタラム朝（古マタラム朝）の建設
3. カンボジア（真臘）の分裂
4. ボロブドゥールの建設の開始

問C 下線部Cについて、この機関が設置されなかった都市の一つ選べ。

1. 広州
2. 泉州
3. 杭州
4. 朔州

問D 下線部Dについて、この時代の日本との交易において、宋の主な輸出品ではなかったものを一つ選べ。

1. 陶磁器
2. 硫黄
3. 書籍
4. 銅銭

問E 下線部Eについて、その支配下での地理的知見を反映した「混一疆理歴代国都之図」が作成されたとされる国家の一つ選べ。

1. 朝鮮
2. 明
3. 大越
4. 日本

問F 下線部Fについて、モンゴル王侯から特権の付与や出資を受け、利益を分配した商人集団の呼び名の一つ選べ。

1. ケシクテン
2. オルトク
3. シバウチ
4. ピチクチ

問G 下線部Gについて、モンゴル帝国軍が侵攻しなかった国家の一つ選べ。

1. バガン朝
2. ドヴァーラヴァティー
3. 大理
4. 陳朝大越

問H 下線部Hについて、モンゴル帝国の遠征軍を追い出して建国された国家の一つ選べ。

1. マタラム王国
2. マジャパヒト王国
3. バンテン王国
4. アチェ王国

問I 下線部Iについて、海禁政策を行うのと同時に、明は鄭和の率いる艦隊を派遣して、東南アジアからインド、そしてペルシア湾からアフリカ東海岸にまで到達させた。この時、鄭和が到達し、後にインド洋を横断したヴァスコ＝ダ＝ガマも訪れたインド西南部の港市の一つ選べ。

1. マリンディ
2. モンバサ
3. カルカッタ（コルカタ）
4. カリカット（コーリコード）

問J 下線部Jについて、明はモンゴル高原の諸勢力にも朝貢を許したが、やがてそれら諸勢力は朝貢の回数などを不満として明と敵対した。1449年に明に侵攻したオイラトに捕らえられた皇帝を一人選べ。

1. 正統帝
2. 永楽帝
3. 洪武帝
4. 崇禎帝

問K 下線部Kについて、この時代、中国沿岸での密貿易に参加したポルトガルは、1511年にマラッカを占領していたが、これに対抗し、ムスリム商人が開拓した交易ルートの一つ選べ。

1. マラッカ海峡ルート
2. オンバイ海峡ルート
3. スンダ海峡ルート
4. ウェタル海峡ルート

問L 下線部Lについて、いわゆる後期倭寇の首領であった人物を一人選べ。

1. 兪大猷
2. 王直
3. 胡宗憲
4. 戚継光

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

新しい武器、戦術が戦争のあり方を一変させ、ひいては国家、社会に大きな変動を与えることがある。その一例に百年戦争がある。この戦争は1328年フランスカペー朝が断絶し、**A**朝が成立したことに端を発する。イギリス国王**B**はカペー家と血縁関係にあり、フランス王位を主張した。1346年**B**の用いた長弓隊によってイギリスは**C**で勝利を取めた。敗れたフランスは黒死病の流行もあり、国内は窮乏したが、ジャンヌ＝ダルクの出現以降勢力を挽回し、国王**D**は財政を整備し、常備軍を設置してフランスにおける中央集権化に大きな役割を果たした。

ルネサンス期には中国伝来の火器が改良され、鉄砲、大砲が本格的に開発された。船舶についても、スペイン、ポルトガルを中心に用いられた**E**は遠洋航海に用いられるとともに軍艦としても使用され、多くの大砲を搭載していた。近世ヨーロッパで起こった火器の開発、戦術の変化などを「軍事革命」*military revolution*と呼ぶ歴史家も多い。兵器、戦術の発展は、ヨーロッパの反教皇勢力にも広く影響を与えている。ペーメンの**F**はローマ教会を批判したため、**G**において異端を宣告され、火刑に処された。だが彼の衣鉢を継いだ**F**派がフス戦争を起こし彼らの装甲荷車を連結した「動く城砦」とマスケット銃は、討伐に向かった神聖ローマ皇帝の軍隊を撃破した。国力増強を進めるヨーロッパ諸国は、常備軍整備と軍事技術の発達に努めた。**H**イタリア戦争（1494～1559）では、フランス王**I**フランソワ1世と神聖ローマ皇帝**J**カール5世の間で戦いが繰り広げられたが、そこで活躍したのは火砲であった。17世紀の三十年戦争では、イタリア戦争をはるかに上回る火器を用いた集団戦が行われ、とくにスウェーデン国王グスタフ＝アドルフは兵を巧みに用いた戦略家であり、**K**率いる軍団を破ったことで知られる。こうして兵器、戦術に格段の進歩を遂げた三十年戦争の結果締結された**L**ウェストファリア条約は、ヨーロッパの新しい主権国家体制を生み出す端緒となったのである。

問A **A**について、当てはまる語はどれか。

1. オルレアン 2. ヴァロア 3. ブルボン 4. メロヴィング

問B **B**について、当てはまる人名はどれか。

1. エドワード3世 2. リチャード3世 3. ヘンリ3世 4. ヘンリ4世

問C **C**について、当てはまる語はどれか。

1. ブルゴーニュ戦争 2. シュマルカルデン戦争 3. ニコポリスの戦い 4. クレシーの戦い

問D **D**について、当てはまる人名はどれか。

1. ルイ8世 2. ルイ9世 3. シャルル7世 4. フィリップ2世

問E **E**について、当てはまる語はどれか。

1. ガレオン船 2. 三段櫓船 3. クリッパー船 4. ガレー船

問F 下線Fについて、フスについて正しい記述はどれか。

1. イギリスのウィクリフの思想を厳しく批判した。
2. ドイツ人聖職者と協調的な立場をとった。
3. 大学などのアカデミズムに拠らず、民間の聖職者の立場を貫いた。
4. 聖書のチェコ語訳を行ったことなどにより、後年チェコ民族運動において高く評価された。

問G **G** について、当てはまる語はどれか。

1. トリエント公会議
2. コンスタンツ公会議
3. ヴィエヌ公会議
4. バーゼル公会議

問H 下線Hについて、イタリア戦争を終結させた講和条約はどれか。

1. ラシュタット条約
2. バーゼル条約
3. カルロヴィッツ条約
4. カトー＝カンブレジ条約

問I 下線Iについて、フランソワ1世に関する説明で誤ったものはどれか。

1. レオナルド＝ダ＝ヴィンチをフランスに招聘した。
2. 公文書用語のフランス語への統一を進めた。
3. 「君主は国家第一の僕」と述べた。
4. 行政機構や徴税制度の整備を行った。

問J 下線Jについて、カール5世に関する説明として正しいものはどれか。

1. スペイン王としては、カルロス2世と称した。
2. アウクスブルクの和議以降、王権を強化した。
3. 富豪ロスチャイルド家の金銭的援助を受けていた。
4. オスマン帝国のスレイマン1世によってウィーンを脅かされた。

問K **K** について、当てはまる人名を記せ。

1. シュトレーゼマン
2. ヴァレンシュタイン
3. ヴァイツェッカー
4. ヒンデンブルク

問L 下線部Lについて、ウェストファリア条約の説明で正しいものはどれか。

1. スイス及びオランダの独立が正式に承認された。
2. プロテスタントの中でもルター派はカルヴァン派に比べ優越的な地位を与えられた。
3. 神聖ローマ帝国諸邦は完全に主権を否定された。
4. フランスはアルザス及びロレーヌの領有を認められなかった。

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 は、記述解答用紙の所定欄に適切な語句を記入せよ。また、下線部14に関連して、とくに19世紀末から20世紀初頭にかけてニューヨークから上陸してアメリカにきた移民の傾向とその傾向に起因する問題について述べ、そうした問題に対し、1920年代前半にアメリカ合衆国がとった立法上の対応について100字以内で説明しなさい。なお、句読点・算用数字も1字とする。

現在のニューヨーク周辺には、1620年代にオランダ人がマンハッタン島南端に要塞を建設するなどしてニューネーデルラント植民地を形成し、その中心都市は 1 と呼ばれていた。同植民地は周囲をイギリスの植民地に囲まれており、先住民との争いも繰り返し起こっていた。そのため、1650年代には彼らの侵入を防ぐべく、オランダ人たちはマンハッタン島の居住地の北側に 2 を築き、それがその後の金融街の通称における起源にもなった。

1664年、イギリスが当時ヨーク公およびオールバニー公であった 3 のもとで 1 を征服し、同地は彼にちなんでニューヨークと名付けられた。その後、第2次 4 を経て、オランダが南米大陸のスリナムや現在のインドネシア領バンダ諸島のラン島を獲得した一方、ニューネーデルラントの領有について主張をしなかったため、イギリスが同地を確定的に支配下に置くこととなった。

その後、ニューヨークは貿易港として発展し、アメリカにおけるイギリスの諸植民地を様々な分野で牽引する地域となっていくた。1765年には、同年にイギリス議会で成立した 5 について植民地の代表たちが話合う会議がニューヨークで開かれ、対応について議論するなどした。その後、独立戦争を経て、ニューヨークは合衆国初の成文憲法とされる 6 が定める連合会議の開催地にもなり、アメリカ合衆国最初の首都となった。その後、首都機能は、フィラデルフィア、そしてポトマック川沿いの現在のコロンビア特別区(District of Columbia)へと移っていったが、経済その他の面でニューヨークはさらなる発展を遂げていった。

19世紀に入るとハドソン川と 7 を結ぶ運河が整備され、内陸部の農産物や資源を東海岸に効率的に運搬することが可能になった。それによってニューヨークは物流の中心としての地位を益々高め、シカゴ、デトロイトおよびクリーブランドといった 7 周辺の都市の工業化を後押しした。人の動きに関しても、ニューヨークは移民にとってアメリカへの入り口でもあり、とくに19世紀から20世紀初頭にかけて多くの移民が主にニューヨークを通じてアメリカに移住してくるとともに、¹⁴ 彼らは安価な労働力として工業化を支えていった。

1920年代には、アメリカにおいて一種の情報革命が起こった。新聞業界は黄金期を迎え、いわゆるタブロイド紙を含めて多くの新聞が発行され、ニューヨークにおける日刊紙は10紙を超えるようになった。また同時期には 8 放送がはじまり、新聞や 8 に関わる会社の中には、本社をニューヨークに置きつつ、全国的または国際的な規模で大量の情報を伝える媒体、すなわち 9 として顕著な発展をみせたものもあった。

また、ニューヨークでは金融分野の発展もみられた。18世紀終わり頃には、イギリスにおいて海上保険を発展させたロイズの成り立ちと同様、 10 ハウスやその周辺にブローカーたちが集まり、連邦政府や州の債券、銀行や保険会社の株式などの取引が行われた。1817年には、現在の 11 の前身となる取引所が組織され、ブローカーたちが部屋を借りて1日に2回集まって取引を行うようになった。現在、ニューヨークは、 11 のほかにNASDAQを擁して世界の証券市場をリードするとともに、各国通貨の中においてドルが 12 であることも相俟って、アメリカ経済の中心でもある同地の金融街には多くの金融機関が拠点を置き、世界で最も存在感のある金融都市となっている。

ニューヨークは、ジェンダーや多様性(ダイバーシティ)との関連でも先駆的な地である。たとえば、1848年に女性の権利獲得のための会議が開かれ、その後の 13 運動のきっかけを作った地は、ニューヨーク州北部のセネカ・フォールズである。また、1969年にニューヨーク市内のゲイバーに警察による弾圧的な手入れが行われたことに端を発して暴動が発生し、同暴動から1周年を記念し、当初は「ゲイ・パレード」としてニューヨークなどで始まったデモンストレーションは、LGBTの文化を讃えるべく、その後アメリカ国内の各地、さらには日本を含む世界各地でも行われようになっていったプライド=パレードの始まりとされている。

[以下余白]

